

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法

貫汪館会報

第69号

発行 貫汪館 発行日 平成二十三年十二月二十七日
発行人 森本邦生 広島県廿日市市宮内一四八〇

10月2日貫汪館居合講習会

平成23年10月2日(日)、窓から宮島の見える柿の浦集会所において、貫汪館主催の居合講習会が行われました。当日は天候もよく暖かい日で、窓からの風が心地よく、気持ちよく稽古を行うことができました。

講習会は、始めに正座の姿勢、立ち姿勢、歩く時の姿勢を十分に稽古しました。その後、その姿勢を大切に、形を力み無く自然に行うように稽古しました。

まずは、澁川一流の半棒を、その後、大石神影流表十本の稽古を行いました。正座や立ち姿勢では、力みの無い方でも棒や木刀で相手を打つ時、または斬る動きの時に、棒や木刀にとらわれ力みが出て、固くなっていました。その結果、自然な動きが出来なくなり、苦労されていました。最後に、澁川一流居合の稽古を行い、講習会を終えました。

今回の講習会にも栃木県、神奈川県、愛知県、福岡県など遠方から参加される方もあり、大勢での講習会となりました。皆さん講習会へのご参加ありがとうございました。

また、講習会に参加されたことの無い方でも、今後の講習会にぜひご参加下さい。

以下に、講習会に参加された方の感想文を掲載していますので、お読みになり、今後のご自分の稽古の参考にしてください。

(文責 片岡潤一)



「形」は生まれるもの

体の使い方は、平素から心掛ければ、刀を持ったり棒を持ったりの時に、姿勢が崩れてしまうので、普段から全身の力を抜いて歩いたり、座ったりしているつもりですが、やはり十分ではなく、必ずどこかに力みが出てしまいます。特に、座る事に比べて立つことは何倍も難しく感じます。なかなか自然に立つことができませぬ。これができれば、抜き付けができるという事を指導頂きましたが、いまだその感覚を掴みきれいでませぬ。

半棒の稽古では、相手の太刀を落とす時、どうしても手打ちになってしまつので、極力体を緩めて、重心を落とすことにより、技をかけることを心がけましたが、これもなかなかスムーズにはできません。先生から「形をつくるのではなく、正しく動けば形は無限に生まれてきます。」と指導して頂きました。しかし、形を覚えようとするあまり、どうしても目で見える型や位置などにこだわってしまします。形は結果でしかないという事は頭では分かっているつもりでも、それを体現する事は至難の技だと思えます。

大石神影流は、相手がありませんし、非常に難しい理合です。これでも手順を追うことにとらわれてしまいました。形の中には、間合による駆引き、打つ気による相手への技など、高度なものが含まれていることを感じました。全部は覚えきれませんでした。少しずつでも稽古していきたいと思えます。

最後に居合を行いました。抜刀する時に前掛かってしまうこと、重心が落ち切らない事のほか、座った状態での抜き付けの鞘引きができない事など、新たな課題がたくさんありました。もっともつと、力を抜いて動くことの稽古、研究を重ねたいと思えます。

(文責 稲垣幸男)



日本古武道大会

平成23年11月3日(木)明治神宮西参道芝地において、日本古武道大会が行われました。今回は、森本先生、竹本師範、竹本治恵が参加しました。今年は、曇り空ながら気温23度暖かい一日でした。

始めに古武道振興会会長、斉藤先生から、この日本古武道大会は昭和10年から始まり、今回で76回目を迎えます。日頃の修練された古武道をご観覧の皆様披露して下さい。」との挨拶がありました。第一会場、第二に分かれた会場で、それぞれ27流派の合計54流派が演武されました。今年は、一般観客の方が例年より多くビデオ撮影や写真撮影されていたように思いました。

それだけ多くの人の注目を得ている古武道をやっている一人として、今まで受け継がれたものを、後世に伝えていかなくてはいけないと痛感しました。

私は、これまでいくつかの演武においても、自分が良い演武をしなくてはならないと思ひ込み、過度に緊張してしまつたため、動きも表情も硬くなってしまひ、満足できる演武ができませんでした。しかし、今回は演武前に、先生から、「自分が今できる技をそのまま披露すればいい。」との言葉をかけていただき、実力以上のことはできないのだと気づかせて頂き、楽な心で演武をすることができました。これからは、思い込まず、何事にも動じない平常心を養うことを課題とし、日々努力を重ねて精進したいと思えます。

(文責 竹本治恵)

12月4日貫注館講習会感想

今回の講習会は、無双神傳英信流抜刀兵法の大小詰、奥居合座技で、形の稽古を始める前に、上半身の力み、下半身の力みをとる稽古、そのままの形を崩さずに、座ること、立膝で座ることをしっかりと稽古させて頂きました。

まず、その基本稽古で、自分の身体の中の部分が緩んでいないのかを理解することができました。

私の場合、左股関節の硬さが、下半身の緩みの妨げになっていることや、立膝の座り方が偏って難しいことがわかりました。それを踏まえた上で、大小詰の稽古、奥居合の稽古をさせて頂き、自分の身体の力みが、どうしても邪魔をしてしまい、もどかしい思いの連続でした。大小詰では、刀を遣う時とは違った動きで、自分がこうしようあししようと思えば思うほど、相手はびくともしなかつたのですが、相手の力を借りて、何も考えずに頭を空にすると、ほとんど力を使わず、業をかける事を体得できました。

午後からの奥居合も、基本は、力みを取り、刀に任せることに心掛け稽古しました。ただ、立膝の座り方一つで、すべてが、決まってしまうことを感じ、いかに基本である座ることの大切さを知ることができました。

今回の講習会で、稽古させて頂いたことを頭にしっかりと入れて、日常生活座ること、身体の力みを取ることを、そして、自分の心を穏やかに鎮めることを日々努めて行きたいと強く感じました。

(文責 永井ゆかり)



貫注館廿日市天満宮稽古納め
平成23年12月18日(日)廿日市天満宮において、一年納めの奉納演武を行いました。

始めに、岡田先生から「この様な寒い環境の中で演武する事は、これから生きていく中でよい経験になると思います。そしてこれからも、武道を学ぶことで強く優しい人間になりましょう。」とお言葉を頂き、岡田先生の居合の演武に続き、門弟による居合と柔術の演武を交互に行い、最後に森本先生の居合の演武で終了しました。

終わりに、上條先生から「それぞれに思う所があったと思いますが、その気つきを来年の稽古に生かして、稽古に励んで下さい。」とお話があり、最後に森本先生から、「子供も大人の方も、素直な素晴らしい演武でした。今日の演武の状態を忘れずに稽古をすれば、上達も早いと思います。」と奉納演武の講評を頂きました。

今年の稽古も無事終了し、門弟の方々もそれぞれ上達されていると感じました。来年も更なる上達を目指し、稽古に励んでいただきたいと思います。

本年も大変お世話になりました。どうぞ、よいお年をお迎えください。

(文責 竹本治恵)



一年を振り返ってみて

柔術と出会い、自分を感じる事、相手を感じる事の大切さ、面白さを知りました。毎回の稽古が新鮮で、驚きと感動と発見の連続でした。今後、柔術の稽古を通して、どのような世界が待っているのか楽しみでなりません。

(文責 中篠迫桂子)

廿日市天満宮奉納演武会

私自身の一年間を振り返ると、今年1月に初段を頂き、より一層、技の向上を目指してまいりました。その成果を神様に奉納するつもりで、演武に臨みましたが、少し気負い過ぎて演武の最中、形を瞬忘れてしまい、全く別の技になりました。動き自体は自然であったと思いましたが、決めていた形が出来なかつたことに対し、少し悔しい思いもありました。その事を竹本師範にお話した所、「自然に体が動いて、技が出たのであれば、間違いではない。」とお言葉を頂き、自分のこれまでの稽古も間違いではなかつたのだと、思えることができました。

今回の演武会で感じたことを忘れず、体が自然に動くことを目指し、来年も稽古に精進したいと思います。

(文責 西川朋樹)

